

本の紹介

川口慎介著「深海問答」

X-Knowledge, 328p, 2024年8月17日発行

2,200円(税別), ISBN978-4-7678-3318-7

「地学は少年を大人に、大人を紳士にする」。本書の「はじめに」で書かれているこの言葉を読んで、なるほど！と私は大きく頷いた。刊行してからだいぶ経って、内容を紹介するには時期を逸した感がある。すでに複数の媒体から書評が出ているし、Webサイトでも多くの好意的なレビューが書かれている。ただ、本書は教育書としても優れているので、そのような視点から感想を書くことにする。

本書の内容は「海」の科学である。本の題名通り「海にも温泉はあるのか？」のような問いを見出しとした話題に、海洋調査の豊富な経験やユーモアを交えながら解説している。数えたところ、話題は全部で128ある。それぞれは1000-2000文字で、この拙文の文字数と同じくらいである。昨年、中学生を対象とした研究授業に取り組んだ際に、一回の授業を一つの間答のようにすると、生徒たちは話題を理解して興味を持ちやすいと思います、とその学校の理科の先生が教えてくださった。これは大変ためになった。ならば、本書には128回分もの授業に活かせる間答が収められている、とも言える。しかも、使いやすく整えられた形で。

それ以上にありがたいのは、行き届いた文章である。「(前略)子供だましでボヤかさず、老若男女に噛み応えがあるけど、決して難しくはない。(中略)そんなことを考えて、この本を書きました。」という著者の意気込みが伝わってくる。表現が明瞭だけでなく、事実・推定・仮定を書き分けている。例えば、「しかし、「今ココにある」のは、すでにでき上がった鉱床だ。だからどれだけ詳しく調べたとしても、いかにしてでき上がったかという成因論は、最後のところで想像に頼るほかなくなってしまう」。当たり前とも言える内容だが、こういった誠実な記述のおかげで、個々の解説は、その終わりまで精度が落ちない。教育現場では、使い慣れた用語でも、ぼんやりとしか説明でき

ずに居心地の良くない経験をすることが、しばしばある。この理由には、(1)己の理解が不十分、(2)その用語自体の定義が曖昧、がある(あるいはその両方)。(1)は、生徒が敏感に反応して躓いてしまう。(2)は、そのことをきちんと説明すれば、かなりの生徒が納得する。これは地学教育の難しさの一つだが、本書はこの悩みを解決してくれる記述が豊富に含まれている。

話題ごとにまとまっており、どこからでも読める。一方で、全体の流れも綿密に計算されており、順番に読み進めることで、初学者でも海について、広い視野でかなり深く理解できる。私はこれまでに三度読んだ。最初は頭から順に読み、次は気になった話題をつまみ食いするように気ままに読んだ。それから少し時間をおいて、改めて頭から読み直した。読むたびに新発見があり、今では海についてちょっと大人になった気がしている。全体では決してさりと読み切れる量ではないが、無駄がない。本書を執筆中だった著者が私に、「エディンバラでジェームス・ハットンとジョセフ・ブラックの墓に一緒に行ったでしょ。あの話を本に書きたいのだけど、うまく収まらなくて削らざるを得ない」と話していたことを思い出した。その時は、何とかして盛り込むよう冗談交じりに要望したが、でき上がった本書を読み、たしかにあの話を挟む余地はないと感じた。今後も机の近くに置いておき、折に触れて読み返したいと思っている。

(高知大学 藤内智士)

2022.3.4 受付

2022.3.4 学会ニュースレター公開

2022.3.4 学会ホームページ公開